

# マックを訪れる

## 多様なアルコール依存症患者たち

---

- 多様化するアルコール依存症者に合わせ、12ステップに基づいた回復プログラムを提供していく。(マックモデル)
  - (1) 高齢化する依存症患者
  - (2) 他の障害を伴った依存症患者
  - (3) 収監施設（メッセージと退所後の依存症患者）
- マック施設の機能分科

通所者や入所者の個々の状態に合わせ、多様性を兼ね備えたプログラムの構築。

一例として「寿アルク」の高齢・障害の依存症者に対応した新たな談話型プログラム

# さいたまマック 通所基本モデル

	前 期 (入院中)	第 一 期 2~3ヶ月	第 二 期 2~3ヶ月	第 三 期 3~4ヶ月	第四期 1~3ヶ月
午前	グループ ミーティング	グループ ミーティング	グループ ミーティング	グループ ミーティング	<b>就労中</b> アフター ケア 休日に 通所
午後	グループ ミーティング	マック内 及び外回り ミーティング	就労準備活動 ハローワーク 巡り		
夜	A.A.ミーティング	A.A. ミーティング	A.A. ミーティング	A.A. グループ	

- ・ 随時の個別面談
- ・ 挨拶や礼儀の実践
- ・ 掃除
- ・ 買物、調理実習
- ・ 宿泊研修
- ・ 四季の行事:七草、七夕、クリスマス、餅つき等
- ・ 合唱
- ・ 誕生会<sup>8</sup>

# 様々な回復支援 I

---

- グループでの支援と個別支援
  - ・利用者は仲間やスタッフの言葉を受け入れながら、起きていた事実を認め始めます。そして、仲間やスタッフの姿から回復への希望を見だし、彼らの力を借りてアルコールから離れる決断をしていくようになります。
- 日常生活支援
  - ・生活のリズムや食習慣等の生活習慣の修正や調理・金銭管理などの生活スキルの学習
- スポーツ、レクリエーション活動
  - ・ソフトボール、卓球等の活動を通して孤立しがちな人間関係の垣根が取り払われる。

## 様々な回復支援Ⅱ

---

### ○ 四季の行事

- ・七草、桃の節句、彼岸(亡くなった仲間の供養)、端午の節句、七夕、お月見、クリスマス、餅つき等、を行い、四季の移り変わりを感じ、一般的生活観を再体験する。

### ○ 宿泊研修

- ・他施設との合同で行う12ステップによる分かち合い。

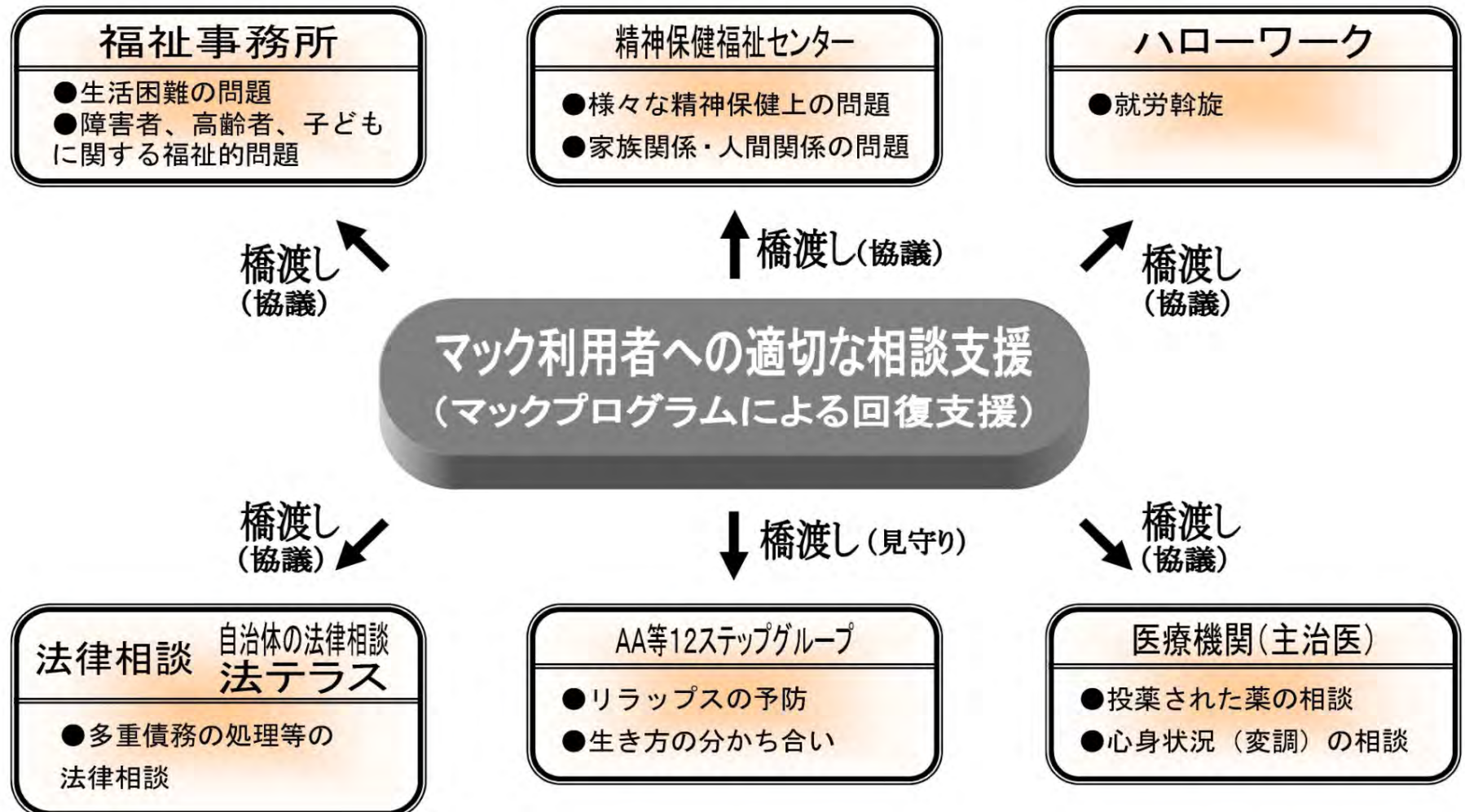
### ○ 合唱や映画鑑賞

- ・音楽を通しての情操の芽生え、仲間意識や一体感

### ○ 就労支援と就労後の相談支援

- ・Selfish Program(最優先は最初一杯を遠ざけること)  
残業よりA.A.ミーティングを優先、宴会出席は・・・

# マック利用者への協働支援概念図



# マックから見た問題と支援対策

---

- **生活保護法を巡る問題**

  - 移送費の支給に関する実施機関による差異

  - 基準改定における住宅扶助費減額の影響

- **障害者総合支援法を巡る問題**

  - サービスに見合った人員や人材の確保に向けた財政的措置

  - 就労自立者の輩出と施設運営のジレンマ

  - 地域活動支援センターの利用制限

- **支援対策の枠組み考**

  - 支援対策の広域化

- **多様な人材の必要性**

  - 当事者スタッフと非当事者スタッフでの多様性のある支援 <sup>12</sup>

# おわりにあたって

---

～ 修了者の言葉から ～

マックに来て

皆から人として信じられ

自分の責任を自覚する

そして、無条件で信じてくれたことに感謝